

第5章 まちづくり推進エリアのデザインイメージ

5-1 推進エリアの位置づけ

5つの推進エリアに対して各々の地域性を活かした具体的なまちづくりを進めます。

推進エリア 1	推進エリア 2	推進エリア 3	推進エリア 4	推進エリア 5
飯山駅周境界限	愛宕寺町境界限	飯山城跡公園 ・人形館境界限	広小路境界限	商店街境界限
<位置づけ> 『まちの玄関』 北信州地域をつなぐ 情報発信拠点 周囲の豊かな自然へ の入口 <コンセプト> 観せる・知る・味わう 情報発信のまち <まちづくり展開> ■自然空間の創出 ■北信州イメージの 景観形成の重点化 ■広場・空地を活用し た市民活動の展開 ■道の駅直売所的機 能を駅前で展開 ■開業に向けた土産 品の開発や食事処 の出店誘致 ■まち案内ガイドの 	<位置づけ> 『まちの客間・庭園』 小京都の風情を醸し 出す落ち着いた空間 <コンセプト> 伝統を受け継ぎ、歴史 を育む寺のまち <まちづくり展開> ■境内・参道・遊歩道 の雰囲気づくり ■通りから見える伝 統工芸品（仏壇な ど）のディスプレイ ■休息できる空間の 提供 ■雰囲気のある飲食 店誘致 ■お寺の参画（禅体 験、精進料理など） ■お寺の参画（禅体 験、精進料理など） 	<位置づけ> 『まちの客間・庭園』 来客をもてなす空間 <コンセプト> 飯山の歴史とふるさと 文化を魅了するまち <まちづくり展開> ■飯山城跡公園の整備 と活用 ■周辺の空地を利用し た朝市やオープンカ フェの開催 ■既存建物を活用した 土産や食事処の出店 ■飯山城跡公園と人形 館を意識したもてな し機能の強化 	<位置づけ> 『まちの居間・台所』 落ち着いたある雰囲気 気で食を楽しむ空間 <コンセプト> 食とくつろぎのまち <まちづくり展開> ■既存土蔵を活用し た商業活動の展開 ■広小路駐車場を活 用した賑わい広場 の展開（パティオ） ■地域ならではの食 の提供 	<位置づけ> 『まちの居間・台所』 賑わいを通じて市民 と来訪者が交わる空 間 <コンセプト> 集い・交わり・賑わい のまち <まちづくり展開> ■生活の中にある食 の提供 ■「魅せる」歩行者中 心の通りづくり（祭 りの時のような） ■「泊る」の質と量の 充実 ■空き店舗や空き地 の柔軟な活用 ■六斎市の充実 ■まちなみ修景 

5-2 まちづくりデザインイメージ

飯山駅周辺界隈のまちづくりイメージ（推進エリア1）

～観せる・知る・味わう情報発信のエリア～

北信州の玄関として緑豊かな心地よい空間の情報発信拠点をつくります。また「雪と寺の町シンボル広場（現飯山駅北側広場）」を起点に飯山らしさの風情へ誘います。

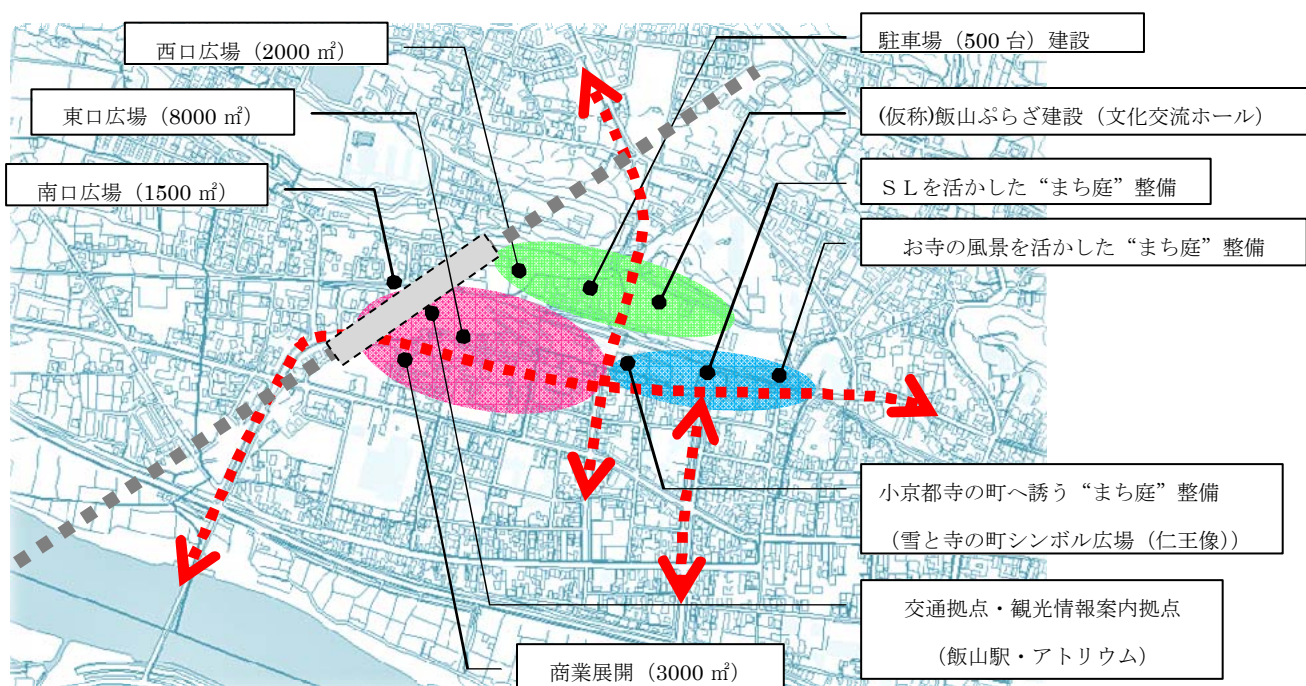
まちづくりデザイン方針

■基盤整備（ハード）

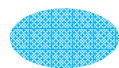
北信州・飯山の自然を感じられる植栽を多用し、水路や道などには自然素材を使い時間の経過と共に味わいが出る空間とします。また、周辺の山々も駅前空間づくりの重要な要素であることから有効に活用します。

■まちおこし活動（ソフト）

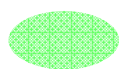
外部企業の参入が当地域のイメージを壊さないためにも景観形成のルールを整えることが重要です。広場では年間を通じて広域的なイベントや、地域食材のPRを兼ねた朝市（マルシェ）やオープンカフェなど来訪者との交流が深まるようにします。



自然豊かな上信越高原国立公園の駅を印象付ける。あわせて交通結節機能や広域的な観光情報案内機能・市民や来訪者が憩える空間とします。

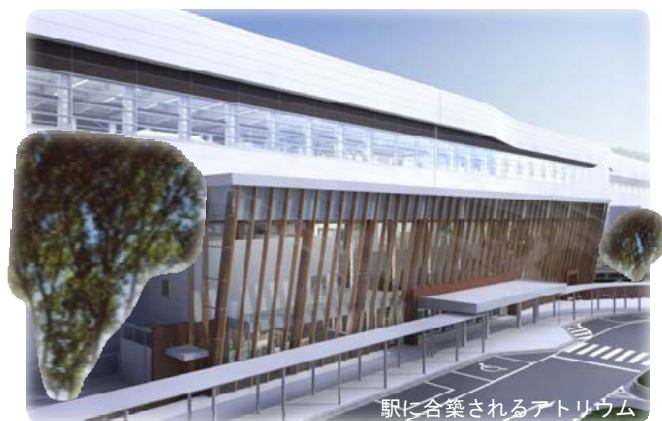


雪と寺もまち飯山の風情を醸し出し市街地へ誘う空間。西には正受庵、北には寺町や飯山城址が控えています。



多目的な都市機能（駐車場・文化交流ホール・文教施設）が配置される地区で、利用者の利便性と快適性を高めます。

飯山駅付近での展開



駅に合築されるアトリウム



明るく温もりのある機能的なアトリウム内部イメージ



飯山駅に合築されるアトリウムは、北信州の観光・情報発信機能と長野県産材を利用したくつろぎ空間として来訪者や市民の交流の場としてもその利用効果を高めます。

駅舎や駅前広場はボリュームが大きく、その空間が閑散となりがちなことから、適度な囲まれ感や周辺の山々の季節の変化が楽しめるような空間づくりが重要となります。自然をコンセプトにした緑豊かな高質的空間は、市民も来訪者も居心地のよい雰囲気となるようにします。

駅前の商業用地(3,000 m²)は飯山駅や駅前広場との一体的空間とし、建築形態や意匠・植栽・業種(サービス内容)には配慮し、主要な道路の沿道(民有)空間も建築物や屋外広告物に一定程度のルールが必要と考え良好な空間の持続性を担保する必要があります。



駅前街区公園



東口広場



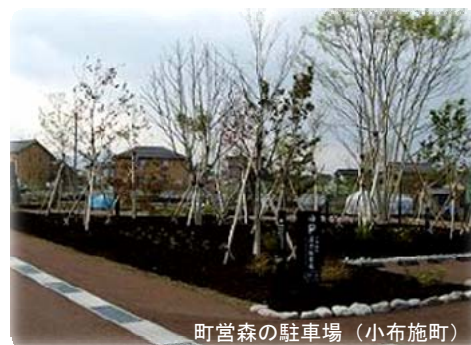
ハルニレテラス(軽井沢町)

～緑に包まれた森の中の駅をイメージ～

上信越高原国立公園の駅として北信州を代表する“ぶな”を中心とした森の中の駅前空間を創出します。“ぶな”の植生を考慮し他にもモミジやカエデなども組み合わせた緑豊かな空間づくりをおこないます。

飯山駅西地区での展開

飯山駅西側の地区は広場や駐車場、多目的ホール（(仮称)飯山ぷらざ）が整備され、駅利用者はもちろんのことイベントなど多様な活動に利用できる土地利用となっています。また隣接するふるさと館・図書館・美術館などとの施設連携も図り利用者の利便性を高めます。西側には長峰丘陵（片山稲荷神社の森）もあることから自然を活かした駅西地区一帯のランドスケープに配慮します。



まちなか公共交通の展開

新・飯山駅開業による交通結節機能強化とあわせて、回遊性まちづくりに必要なレンタサイクルやまちなか循環バスなどは、利用しやすいサービス提供とワクワクするような楽しい町をイメージさせるデザインが望ましいです。



雪と寺の町シンボル広場から寺町方面への展開

飯山駅から北に 300mほど歩くと仁王像が迎え入れてくれます。この仁王像は明治 45 年の善光寺御開帳にあわせて飯山の仏師が製作したもので、長い年を経て平成 22 年に飯山へ里帰りしました。この仁王像が設置される雪と寺の町シンボル広場を起点に西へ向かえば正受庵、北へ向かえば寺町、飯山城跡・城下町へとまちの雰囲気が北信州の玄関口から寺の町飯山へと変わっていきます。



善光寺参道に建つ仁王像（明治 45 年）



雪と寺の町シンボル広場に仁王門と鐘樓が建つイメージ



鉄砲町児童公園（S L公園）や真宗寺線（25m道路）付近での展開

鉄砲町児童公園の再生にS L（C56-129）を活用した“緑豊かな一まち庭”づくりを進めます。ここでは飯山のまちづくりと関係深い飯山の鉄道の歴史に触れることができ、空間のしつらえは四季の変化を感じる植栽を基調に鉄道に関係する材料等を用い写真ポイントを意識した空間づくりを行います。

真宗寺線は延焼防止など防災道路としてその機能を果たしていますが、島崎藤村の破壊のモデルとなった真宗寺が沿道にあることから、文学の小路として通りの高質化を図ります。具体的には桜並木と水路の整備や歩道美装化が挙げられます。また幅広い道路空間を活用した催しも展開します。



SLを活用したまち庭のイメージ



25m道路リニューアルのイメージ

西敬寺付近での展開

西敬寺周辺の公共空間について寺の風景にあった景観を整えます。



寺を背景にするまち庭のイメージ



寺の雰囲気にあわせるバス停の意匠イメージ

まちづくり取り組み方針

魅力向上プロジェクト	場所	地域のみなさん	市・専門家など
美しいまちプロジェクト	綱切線	- まちづくりルールづくり - 建物などの修景 - 花づくり活動	- 技術的サポート（専門家派遣） - 補助制度の創設
まち“庭”プロジェクト	アトリウム 駅周辺公園 S L公園	- イベントや市民活動の場 - 朝市（マルシェ）開催 - オープンカフェ開催	- 広場整備 - イベントスペースの提供 - 物品の貸出
まちなか賑わいプロジェクト	駅カ 駅前 沿道	- 商業店舗の出店 - お土産の開発 - 駅弁（飯山駅限定）の商品化	- 技術的サポート（専門家派遣） - 補助制度の創設 - 起業支援
歴史と文化を伝える仕掛けプロジェクト	駅カ シンボル広場 S L公園	まち案内人	- 案内人の育成 - 案内サインの整備

愛宕寺町界隈のまちづくりイメージ（推進エリア2）

～伝統を受け継ぎ、歴史を育む寺の町エリア～

小京都の風情を醸し出す落ち着いた地区として、まちの客間・庭園と表現ができる愛宕寺町界隈は『伝統を受け継ぎ、歴史を育む寺のまち』をテーマに、地元まちづくりグループ『愛宕寺町つくろう会』を中心にさらにまちづくりを展開します。

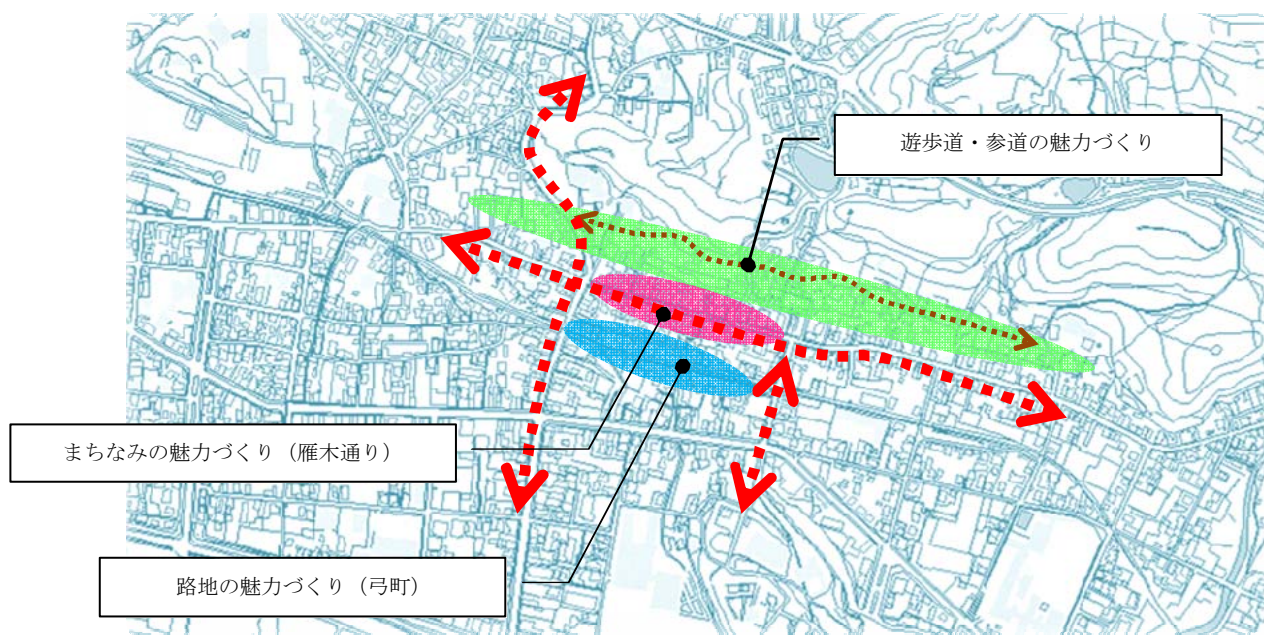
まちづくりデザイン方針

■基盤整備（ハード）

石畳や生け垣など寺町の佇まいを感じさせる庭・植栽やまちなみを創出します。

■まちおこし活動（ソフト）

お寺での体験や魅せる庭園の開放、仏壇や仏像などの製作見学など寺町ならではのまちおこしと、休憩のできる場を提供します。



西側丘陵地に配置されている寺院は、まちなかに 21 カ所の寺があり、そのうち愛宕町を中心とした西側丘陵地には 14 カ所の寺があります。昔から飯山城を敵から守るための防御策として、また城下町の景観を形成するためと語られており、歴史文化の継承と共にまちづくりとの連携が重要であります。

雁木通りのまちなみをさらに魅力的にするために、建物修景だけではなくディスプレイや商品開発・体験・見学といった多角的な方向からまちづくりを進めます。

雁木通りから一步東へ入ると弓町界隈がある。ここは飯山城跡と寺町をつなぎ、小道などは心地よい風情を醸し出しています。また、住民が育てている草花も飾られており生活景のある路地の魅力を創出することで回遊ルートにもなります。

遊歩道・参道の魅力づくりとお寺との協働

～遊歩道～

寺と寺をつなぐ遊歩道は、飯山ならではの植物が咲いており里道を歩いているような雰囲気を醸し出します。舗装材には土色系舗装を施し周囲の景色を楽しめるようなポイントを設置します。また民家のプライバシーを守るために維持管理や景観に配慮した生け垣や塀を設置します。



草花の演出・休憩施設整備・歩道の美装化を図る遊歩道



遊歩道・植栽・建物のバランスが整っている例

(小布施町)

～お寺へ通ずるみち～

雁木通りから西へ 50～70m 民家の間を歩くとお寺が現れます。雁木通りと山門をつなぐみちの魅力向上を図るため、舗装・植栽・沿道建物などの修景を行います。またイベントなどにはこの参道にお寺の特徴やまちのみなさんの発表の場としても活用できることが望ましい。



楽しい参道の例（妙専寺）

スキーを長野県に伝来させた市川達議住職のお寺。スキー伝来 100 周年にちなんで往時のパネルや和紙灯籠で参道を彩った。

(2011 寺町花街道)

寺へ通ずるみちの空間整備が必要（写真右）

～お寺～

寺宝展や寺めぐりはもとより、境内（庭）で心を落ち着かせたり、住職さんのお話やお寺での体験などまちづくりを展開する重要な場所といえます。お寺さんとの協働によるまちづくりを今後も進め精神文化のまちを創出します。



お寺での体験イメージ



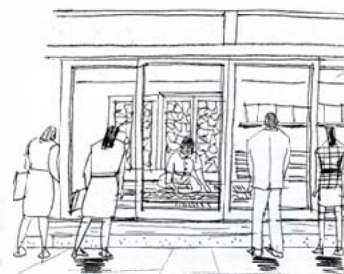
四季の変化を感じるお寺の庭とオープンガーデンのイメージ

まちなみの魅力づくり（雁木通り）

雁木整備を契機にまちづくりが熟してきた愛宕寺町通りの、更なる魅力づくりとしてまちなみ修景による城下町仏壇通りの風情を創出します。また店舗の魅力向上を図るため陳列方法や伝統工芸を活かした商品開発、職人技術が見られる場など民有空間を中心にまちづくりを展開します。



通りを彩る植栽イメージ



店先のイメージ

雁木通りのポイントとなる場所の『まち庭』空間づくりを進めます。まち庭空間では四季の変化が感じられるような植栽を施すとともに、誰でも休息できるようなスペースや小イベントでも対応できるよう工夫します。



人形館西側の“まち庭”イメージ



路地の魅力づくり

近年、路地は日本の原風景のひとつとして人間味あふれる空間として再評価されています。愛宕町においても弓町地区がそれに匹敵し、既に花によるまちづくり活動もされている中で、冬期間の雪処理等の課題を考慮しながら生活に密着したまちづくりを進めます。



まちづくり取り組み方針

魅力向上プロジェクト	場所	地域のみなさん	市・専門家など
美しいまちプロジェクト	雁木通り 小径 参道 路地	・まちづくりルールづくり(追加) ・建物などの修景 ・花づくり活動 ・匂い(お香)のあるまち	・技術的サポート(専門家派遣) ・補助制度の創設
まち“庭”プロジェクト	雁木通り 沿いの空地	・朝市(マルシェ)開催 ・オープンカフェ開催	・広場整備 ・イベントスペースの提供 ・物品の貸出
まちなか賑わいプロジェクト	店舗など	・店舗リニューアル ・技法を活かした限定商品開発 ・名人、職人の魅せる場づくり	・専門家支援 ・補助制度の創設 ・起業支援
歴史と文化を伝える仕掛けプロジェクト	店舗 試作館 お寺	・まち案内人 ・お寺で説法、禅など	・案内人の育成 ・案内サインの整備 ・補助制度創設

飯山城跡公園・人形館界隈のまちづくりイメージ（推進エリア3）

～飯山の歴史とふるさと文化を魅了するエリア～

飯山城跡と愛宕寺町界隈の空間的つながりが強く城下町の佇まいが活かされるエリアです。さらに、高橋まゆみ人形館に年間10万人以上の来館者が訪れていることから、商業活動の誘発を促しながらまちづくりを進めます。

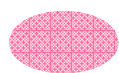
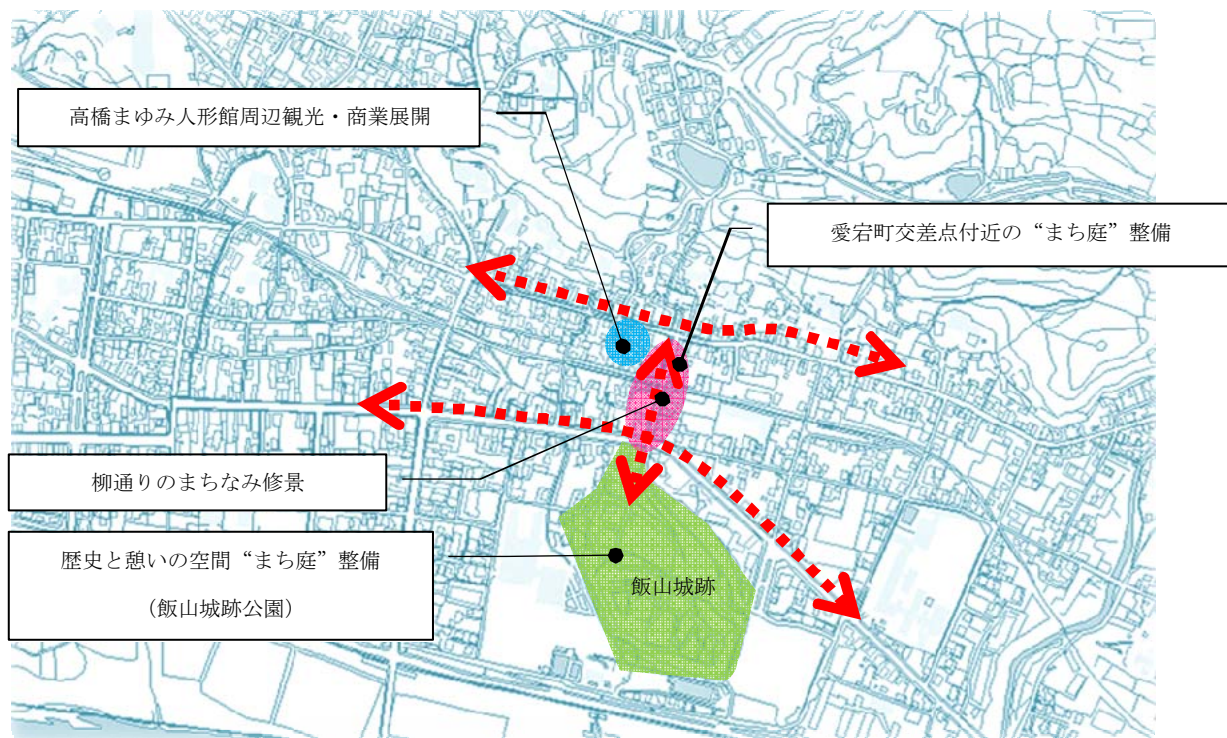
まちづくりデザイン方針

■基盤整備（ハード）

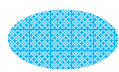
城下町の佇まいを感じさせる植栽・建物修景や店舗開設などでまちなみを整えます。

■まちおこし活動（ソフト）

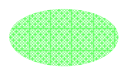
高橋まゆみ人形館の作風である“ふるさと”の雰囲気をまちの中にも取り入れ、飯山ならではの郷土料理や地元農産物・加工品の販売を進めます。



柳通りは高橋まゆみ人形館開館と共に、人や自動車の往来が増加しました。また、来館者は人形館だけではなく、その周辺も散策することから寺町や飯山城跡との連携を深めたまちづくりを展開します。



「雪と寺の町公園」にある“高橋まゆみ人形館”・“月明かり”・“雪明かり”は溜まりの空間となります。施設間の連携はもちろん更なるサービスの向上を図り来訪者の満足度を高められるような空間づくりを行います。



市民はもとより来訪者の憩いの場として親しまれ、飯山の歴史に触れるような空間づくりを行います。また、城跡入口付近は柳通りからの正面性（シンボル性）を高めます。

柳通り付近での展開

商業ポテンシャルが高いこの通りには訪れた人へ郷土食やお土産の提供ができる店舗が望めます。この通りは愛宕寺町と飯山城跡をつなぐ通りであることから、沿道建物についても景観にできるだけ配慮し城下町の風情を醸し出します。また、自動車や観光客の往来が急激に増加したことに相まって、交通安全や住民プライバシーの保護など地域住民の生活環境保全にも十分に配慮する必要があります。



通りに面した建物の修景イメージ



飯山ならではの郷土料理の提供や野菜・漬物などの地元産物の販売イメージ

高橋まゆみ人形館付近での展開

人形館周辺では、来訪者へのサービスを高める必要があります。特に供給が間に合っていない飲食やお土産・休憩の場などは早急に対応を講じる必要があります。また、春～秋にかけては直近の駐車場や空き地を利用して屋台・マルシェ・オープンカフェなど質の高い簡易的なものでの対応も有効と考えます。



人形館周辺の建物修景イメージ

飯山城跡公園での展開

上杉謙信が築城して 450 年が経つことを契機に、“まち庭”プロジェクトの一環として回遊性あるまちづくりと関連づけ、まちのシンボルとして整備・保存を図ります。

飯山城跡では年間を通じてイベントを開催し、市民活動や憩いの場、歴史を学ぶ場として誰にでも広く親しまれる空間とします。



まちづくり取り組み方針

魅力向上プロジェクト	場所	地域のみなさん	市・専門家など
美しいまちプロジェクト	柳通り 城跡公園周辺	・まちづくりルールづくり ・建物などの修景 ・花づくり活動	・技術的サポート(専門家派遣) ・補助制度の創設
まち“庭”プロジェクト	柳通り 城跡公園	・イベントや市民活動の場 ・朝市、マルシェ、オープンカフェ	・公園整備 ・イベントスペースの提供 ・物品の貸出
まちなか賑わいプロジェクト	柳通り 城跡公園	・店舗リニューアル ・商業出店 ・商品開発	・技術サポート ・補助制度創設 ・起業支援
歴史と文化を伝える仕掛けプロジェクト	柳通り 城跡公園	・まちの案内人 ・郷土食の提供	・案内人の育成 ・案内サイン整備 ・補助制度の創設

広小路界隈のまちづくりイメージ（推進エリア4）

～食とくつろぎのエリア～

飯山城跡と一体的な城下町空間として商店街のまちなみを整えるとともに、食とくつろぎをテーマに店舗の魅力向上を図ります。また、この界限ある土蔵を有効に活用したまちづくりを進めます。

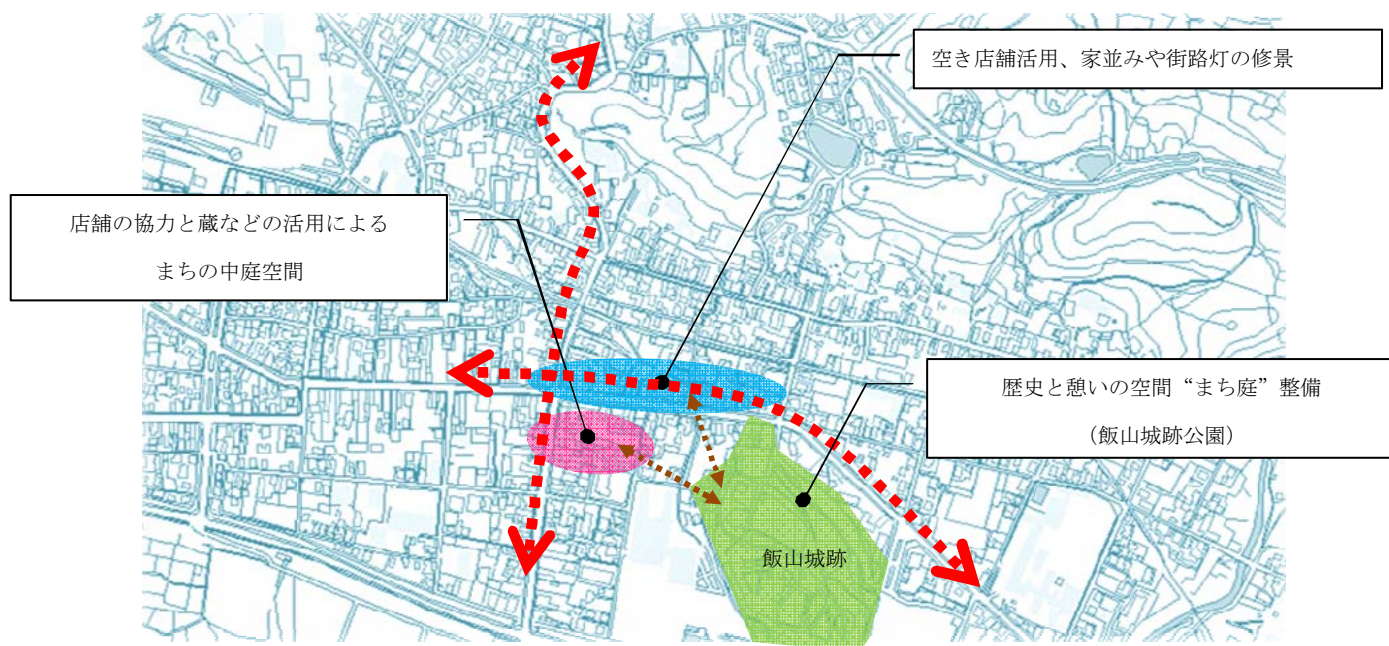
まちづくりデザイン方針

■基盤整備（ハード）

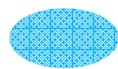
既存の蔵の活用や、植栽により四季の彩りを感じるパティオ的な空間を整え、落ち着いたある雰囲気の中で食を楽しむことができます。また飯山城跡公園と近いロケーションにあるため城郭の見え方や城下町として工夫された空間デザインとします。

■まちおこし活動（ソフト）

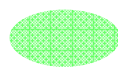
酒蔵（地酒）や菓子店・和紙店・食事処（うなぎ店）など賑わい要素が集合しているエリアであることから、経済効果とまちづくりの相乗効果を高めるため商店との協働によるまちづくりを推進します。



広小路パーキングを囲むように、土蔵や酒蔵所、洋菓子店などが隣接しており中庭的な活用が可能な場所があります。また建造物として興味を引く教会（建築家ジョン・G・ウォーラー設計）も建立しており回遊性の中の拠点づくりを進めます。



道路拡幅事業により整備が一定程度済んだ仲町通りは、オトギの通りとしてまちづくりが進められてきました。この度の飯山城跡公園整備を契機に、城下町としての新たなまちづくりを進めます。



市民はもとより来訪者の憩いの場として親しまれ、飯山の歴史に触れるような空間づくりを行います。また、南大手門付近は城跡入口であることの正面性を高めます。

広小路パーキング付近での展開

まちの中庭的な空間づくりのため、広小路パーキング周囲に立地している店舗との協力により“食”を楽しみながらくつろげる空間づくりを進めます。ここから見える飯山城跡の風景を空間の一部として取り込むことで飯山の歴史に触れることができます。



仲町通りでの展開

城下町の風情を醸し出すため、街路灯のデザイン変更や建物ファサード修景、幅広の街路を閑散とさせない空間づくりを進めます。仲町通り中ほどにある「城見橋」から南大手門へのアプローチ（栄川沿い）も遊歩道として高質空間形成を図ります。また、空き店舗の活用や店舗リニューアルによる商業展開も積極的に進めます。



まちづくり取り組み方針

魅力向上プロジェクト	場所	地域のみなさん	市・専門家など
美しいまちプロジェクト	広小路P周辺 肴町交差点付近 仲町通り	・蔵の活用 ・建物修景 ・花づくり活動 ・まちづくりルールづくり	・技術的サポート（専門家派遣） ・補助制度の創設
まち“庭”プロジェクト	広小路P周辺 城跡公園	・イベントや市民活動の場 ・オープンカフェ	・公園整備 ・駐車場整備
まちなか賑わいプロジェクト	広小路P周辺 仲町通り	・店舗リニューアル ・商業出店 ・商品開発	・技術サポート ・補助制度創設 ・起業支援
歴史と文化を伝える仕掛けプロジェクト	広小路P周辺 仲町通り	・郷土食の提供 ・地元農産物販売 ・和スイーツ開催	・案内人の育成 ・案内サイン整備 ・補助制度の創設

商店街界隈のまちづくりイメージ（推進エリア５）

～集い・交わり・賑わいのエリア～

本町・上町・鉄砲町の界隈には店舗や飲食店、病院や公共施設が集積しており市民生活に密着したエリアともいえます。この特徴を今後も活かす為に、中心市街地の居住人口増加対策を進め、生活必需品の購買力を高めることや飲食店の活性化、回遊性あるまちづくりと絡めた交流人口拡大による消費拡大をねらいとしまちづくりを展開します。

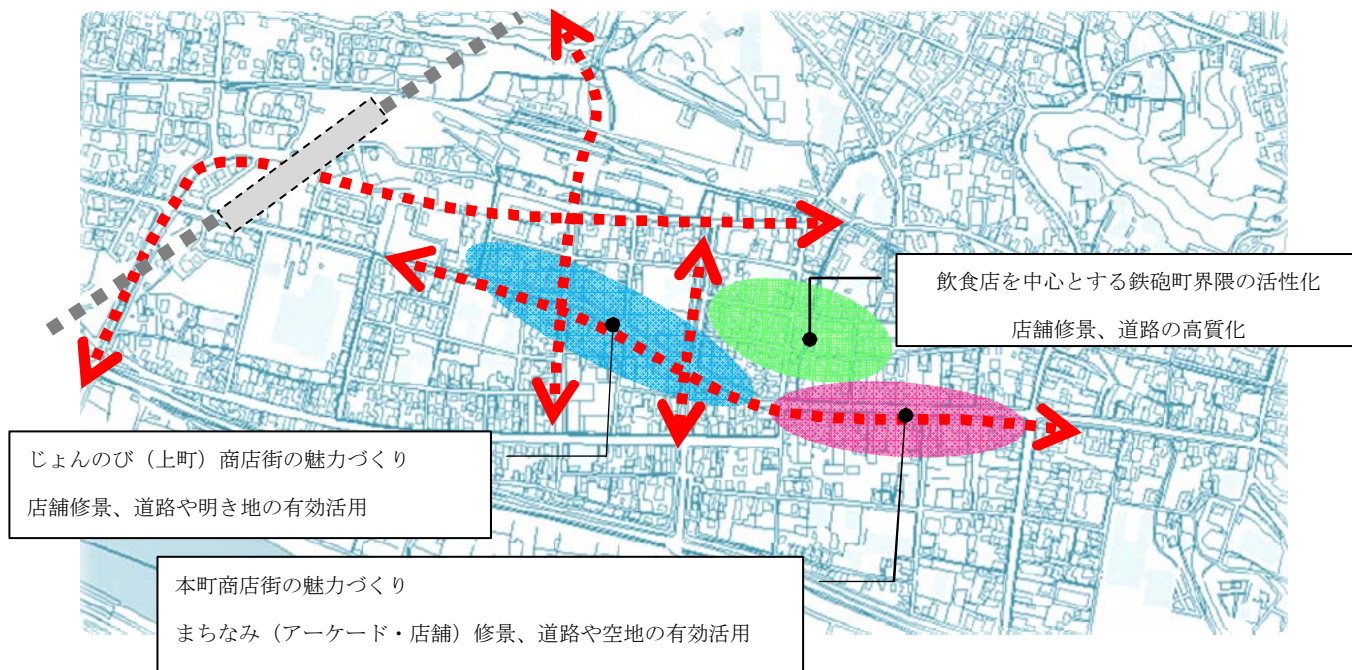
まちづくりデザイン方針

■基盤整備（ハード）

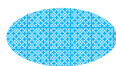
まちなみは色調や形状など地域のみなさんとルールをつくる中で整えていく事が重要であります。

■まちおこし活動（ソフト）

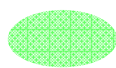
植栽や休憩スペースが配置できるような歩行者空間をつくり、イベント（祭り）の時のように歩いて楽しい通りとします。若い世代がまちなかで活躍（起業）できるような仕掛けをするとともに、飲食店や宿泊施設の充実を図り昼夜賑わいのあるまちを考えます。



本町商店街では祇園、灯籠祭り、えびす講、六斎市など一年を通じて催し物が開催されており賑わいを見せています。アーケード改修を契機にまちなみ修景等も積極的に取り組むことが重要であります。



じょんのび商店街としてまちづくりが進められており、その雰囲気をまちなみとしても取り込みます。このエリアは駅に近いことから、宿泊施設やお土産店舗といった来訪者向けの経済活動も推進します。



飲食店があつまっている鉄砲町界隈は昔から市民に親しまれ拠点となっている町ですが、年々店舗数は減少傾向にあります。かつての鉄砲町を思わせる魅力づくりを推進します。

本町商店街通りでの展開

まちなみの魅力づくりを進めていきます。ぶらり広場では六斎市が開催されていますが、“まち庭修景”を行いまちづくり活動の充実を図ります。また空き店舗・空き地の有効利用や、祭り開催時のような道路空間の有効活用も実験的にを行い、まちづくりを模索することも大切であります。また六斎神社周辺の修景や、建物を含むアーケード通りの修景も進めます。



上町商店街（じよんのび商店街）通りでの展開

“じよんのび”をイメージしたまちなみ魅力アップを図ります。街路樹の他に草花や統一されたツール（暖簾・格子・看板など）で店先や通りを演出し、道路空間もまちづくりの為に有効活用します。空き店舗は出店チャレンジの場として活用を促します。



鉄砲町界限での展開

昔は店より高い雪道に看板が出ており、そこから店に入っていた頃もあったとか・・・。雪国ならではの光景であります。近年の消雪パイプや流雪溝の整備によりその光景はないものの、飲食店が集まる界限の雰囲気の特徴づけるため、道を美装化したり草花などを配置し人々の拠り所となる空間づくりを行います。



まちづくり取り組み方針

魅力向上プロジェクト	場所	地域のみなさん	市・専門家など
美しいまちプロジェクト	本町通り 上町通り 鉄砲町界限	・アーケード修景 ・建物修景 ・通りの植栽 ・花づくり活動 ・まちづくりルールづくり ・環境美化	・技術的サポート（専門家派遣） ・補助制度の創設
まち“庭”プロジェクト	本町商店街 上町商店街	・屋台村開催 ・マルシェ開催	・技術的サポート ・補助制度創設 ・広場、駐車場整備
まちなか賑わいプロジェクト	本町商店街 上町商店街 鉄砲町界限	・店舗リニューアル ・商業出店 ・屋台村	・技術サポート ・補助制度創設 ・起業支援